

青木村消防団広報

KODAMA

発行／青木村消防団 〒396-1801 長野県小県郡青木村大字田沢111 TEL.0268-49-0111
発行責任者／沓掛俊一朗 編集／青木村消防団本部班

No. 27

発行：平成31年2月1日

平成三十一年青木村消防出初式 式辞

団長 沓掛 俊一朗



輝かしい平成三十一年の新春を迎え、長い歴史と伝統を誇る青木村消防出初式が、ここにかくも盛大に挙行できます事は、団員と共に喜びとするところであります。団員各位とご家族の皆様に対しまして、日頃のご活躍とご苦労に深く、感謝致します。また、御来賓の皆様におかれましてはご多忙の中ご臨席賜り誠にありがとうございます。

さて、昨年を振り返りますと、当村におきましては皆様の記憶にもございますように殿戸地区、五島慶太翁生家への落雷を含めた火災出動四件、行方不明者の捜索一件の出動と豪雨による出動が一件ありました。幸いにも人的災害はなく、最小限の災害に食い止める事が出来ました。これも川西消防署吉池署長を始めとする、職員の皆様のご協力と、日頃からの村民の皆様との防災意識の高さ、ならびに団員諸君の予広報活動の賜物と感謝致します。近年では自然災害が大規模化、多様化している中で、県内では、幸いにも大雨による避難勧告や、床下浸水等がございましたが、比較的、穏やかな年であります。しかし、県外に目を向けると平成三十年の今年の漢字

平成30年度青木村消防団役員と退団者の皆様



「災」が表すように大規模災害が多く発生し、災害の恐ろしさを改めて痛感させられたところでありました。二月の北陸豪雪から始まり六月に大阪北部地震、七月に西日本豪雨、九月には北海道胆振東部地震や台風二十一号が発生するなど災害が相次ぎ甚大な傷跡を日本各地に残しました。その中には消防団員で被災した仲間も多くいます。自身が非常に厳しい状況の中、自分たちの町は自分たちの手で守る、という消防精神のもと復興に臨まれる姿には強く感動致しました。また、これらの災害では尊い命が奪われたほか、今もなお行方不明者の方がいらっしゃるやいます。謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに、一日も早い復旧復興を心からお祈り申し上げます。いつどこで何が起るかわからない状況は当村にも当てはまります。中々消防団員の増員が見込めない所、防災技術の向上はもとより、更に進化した組織造りで村民の皆様へ安全で安心な青木村をお届けしなければなりません。一昨年は四月より当消防団においては二分団制に移行し、本年度は二年目となりました。細やかに村、地域を知るといふ事を念頭に更に改善して参ります。団員の皆様は青木村の防災の担い手として、もちろん、青木村の未来の担い手として、一層の努力をして戴きたいと思っております。また本日も

越しの御来賓の皆様には、消防団に対し引き続きご協力とご指導ご鞭撻をお願い致します。我々も上小地域の安心・安全の為、努力をして参る所存でございます。そして北村村長をはじめ村民の皆様におかれましては、防災設備の拡充や消防施設の更新など、当消防団の活動に日頃より深いご理解・ご協力、誠にありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。さて、ここで本日は長年消防活動に御尽力された退団者の皆様をご紹介致します。岩下竜太郎前団長を始め、団本部、分団本部の要職を歴任された皆様、団員として常に前線に立ち続けて頂いた皆様です。長年に渡り当村の安心安全の為、御尽力を頂き、ありがとうございます。そして、本当にお疲れ様でした。中には多くの同級生もごいます。一抹の寂しさはありますが今後とも立場を変えて、ご協力とご指導をお願い致します。最後に我々青木村消防団は複雑多様化していく災害に対し、郷土愛護の精神を胸に一所懸命に立ち向かって参ります。結びに、本日までご臨席を賜りました来賓各位、並びに団員諸君とご家族の益々のご健康・ご多幸をまた、青木村の無火災・無災害をご祈念申し上げます。式辞と致します。

一年間の活動を振り返って



副団長 沓掛 啓二

村民の皆様には、日頃より消防団活動に對し深いご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

一年間の活動を振り返って見ますと、青木村消防団は本部役員に機関長の役職を新たに設け、ポンプ車班を率いて防災力の強化をしました。また、消防団をより知って頂くためにポスターを作成しました。

私自身では、副団長の責務をこきまで務めてこられたのは、団長を初め、本部、団員の仲間の支えがあり、叱咤激励をして頂ける諸先輩方のお陰だと感謝致します。

村内で起きました火災では、二十四時間放水を続けるという事は経験したことの無いものでしたが、分団の垣根を超え協力し合い消火する団員の姿に頼もしさを感じました。

青木村消防団本部として、これから様々な問題について考え、協議していき、より良い青木村消防団を築いて行き、青木村の安心安全を守るべく務めて参ります。また、団員人数が年々、減少しています。団員を随時募集しております。消防団として、私達と一緒に青木村をまもりましょう。



本部長 中澤 徹

この一年間を振り返りますと、感謝の年となりました。四月に本部長を拝命し、右も左もわからない状況の中、スタートを切りました。そのような状況でしたので、いくつもの壁にぶつかりましたが、それらを乗り越えることができたのも、沓掛団長はじめ諸先輩方からのご指導・ご鞭撻・叱咤激励、また、同級生をはじめとする分団・本部班の皆様のご理解・ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。また、陰ながら支えてくれた家族なくして、この一年間、消防団活動を続けることはできませんでした。本当にありがとうございます。

最後に青木村消防団を温かい目で見守っていただいております村民の皆様にご感謝申し上げますとともに、青木村の安心安全のために日々精進して参る所存でございますので、引き続き、消防団活動へのご理解・ご協力をお願い申し上げます。

活動に参りますと、女性消防団員の意見発表を行う全国大会に参加させて頂きました。その中で感じた事は、当団は決して大きな団ではありませんが、他にはない団結力の高さを感ずる事が出来ました。

消防団を取り巻く環境は年々厳しさを増しておりますが、悲観的にとらえず、青木村の良さを生かし、活動を支えて参りたいと思っております。

とうとうとしています。この間、団の活動や奏法大会等青木村内に限らず、各方面と交流を持つことにより貴重な経験を得ることができました。



水利救護長 小林 忠彦

日頃より消防団活動に深いご理解とご協力を賜りまして、誠に

に有難うございます。

今年度を振り返ると、新体制が始まると同時に、私が体調を崩し活動が出来ず、水利救護長が不在という事態となつてしまい、皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。

私が復帰しますと、皆様に温かく受け入れられ、青木村消防団は「団員一人一人を大切に」する組織である」と感じた事を今でも鮮明に覚えております。

活動に戻りますと、女性消防団員の意見発表を行う全国大会に参加させて頂きました。その中で感じた事は、当団は決して大きな団ではありませんが、他にはない団結力の高さを感ずる事が出来ました。

消防団を取り巻く環境は年々厳しさを増しておりますが、悲観的にとらえず、青木村の良さを生かし、活動を支えて参りたいと思っております。

とうとうとしています。この間、団の活動や奏法大会等青木村内に限らず、各方面と交流を持つことにより貴重な経験を得ることができました。

とうとうとしています。この間、団の活動や奏法大会等青木村内に限らず、各方面と交流を持つことにより貴重な経験を得ることができました。

又、昨年は三件の火災が発生し消防団員の必要性を今まで以上に実感した年でした。その団員の中でも、ラッパ班員は普段は分団の防火・防災活動をしつつ、団行事に向けてラッパ吹奏の訓練を積んでおります。

青木大会に始まり上小大会、文化祭、出初式と素晴らしい音色を奏でてくれたラッパ班のみんなの努力に感謝します。本当にありがとうございます。

最後に今後とも村の安心安全の為に精進してまいりますので、村民の皆様のお力添えと、ラッパ班への厚いご声援をお願い申し上げます。



警備長 上野 伴樹

村民の皆様には、日頃より消防団活動に對し深いご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

今年度は、警備長として消防団を運営する側の仕事をさせて頂きました。その中で、今年度は火災、台風、行方不明者の捜索など例年になく出動の多い年であり、本部をはじめ分団との連携など真価を問われる年であったと思っております。

その中で本部内でも皆で支えあいながら絆が深まりやらないければ分らないとも良い経験をさせて頂きました。

また、小田駐在所長にはお忙しい中、警備に對する心得

をご指導頂き、警備班員と共に車の誘導を滞りなくする事が出来ました。

最後になりますが今後とも安心、安全な村作りの為、消防団員一丸となり邁進して参りますので、村民の皆様のご理解、ご協力をお願い致します。

今年度は、ポンプ車班員全員がポンプ車を使えることをテーマに、四月当初から訓練を行って参りました。その結果、本年は稀にみる出動回数が多い年でしたが、訓練の成果が遺憾なく発揮され、中でも八月十四日の殿戸区での火災では、一昼夜にわたり水を切らすことなく送り続けることが出来ました。

これもポンプ車班員の常日頃のご苦労と、団員数が少ない中、ポンプ車班員を出していただいている分団の皆様のご理解・ご協力の賜物と感謝申し上げます。

最後に、村民の皆様が安心して暮らせるようポンプ車班員一丸となり、精進して参りますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

今年度は、警備長として消防団を運営する側の仕事をさせて頂きました。その中で、今年度は火災、台風、行方不明者の捜索など例年になく出動の多い年であり、本部をはじめ分団との連携など真価を問われる年であったと思っております。

その中で本部内でも皆で支えあいながら絆が深まりやらないければ分らないとも良い経験をさせて頂きました。